

**コミュニティ施設のあり方調査特別委員会 委員会活動報告 (要旨)**

**調査テーマ**

**「活力あるコミュニティづくり」**

**【目的】**

地域の方々が世代を超えて利用する施設が、より活力あるコミュニティづくりに寄与するために、今後どうあるべきか検討しました。

**【当市の現状と課題】**

地域の所有する施設は地域コミュニティの拠点として、また、世代間交流の場としても重要な機能を果たしています。地域コミュニティの果たす役割は近年多様化しており、地域の中で福祉・教育・防災・防犯や街づくりなどの活動を通じて行政補完機能も担っておりです。しかし、これらの地域活動を公民館で行っている地域もあり、市の所有する公共施設と地域の所有する施設での活動目的は重複する部分が多々あります。また、施設を抱える地域は、公共施設と同様に老朽化に伴い施設更新に係る将来費用や運営する人材をどのように賄うか、

などの問題を抱えています。当市の状況を整理した後、先進的な取り組みをしています埼玉県越谷市と千葉県習志野市を視察し、委員会での議論を経て次のとおり提言いたします。

**【行政への提言】**

今後それぞれの施設を活力あるコミュニティづくりの拠点とし、施設の複合化及び多目的化や、地域が所有する施設の状況を鑑み、総合的に捉える方がより有効であると考えます。

一、公共施設を更新する際には、周辺の地域が所有する施設の状況を考慮し、統合や複合化などについて丁寧な説明会を開催し、住民の意見や要望を聴くこと。

一、地域の所有する施設に対し必要に応じ助成制度等を設けること。その際は地域の財政状況や考え方を十分に聞き取ること。

一、コミュニティ施設の配置を考える上で、小学校区を圏域とし、小学校の更新・改修をする際には、コミュニティ施設との複合化につなげる。併せて、自治区の再編も考慮していくこと。

一、上記提言に取り組み上で、各部を柔軟に横断することは必要不可欠である。専門部署設立またはプロジェクトを立ち上げること。

以上、コミュニティ施設が効率的・効果的に継続、統合、複合化、縮小、一部縮小などの更新をしていくことでより一層活力あるコミュニティが形成されることを要望し、当委員会の報告といたします。



**高齢者支援調査特別委員会 委員会活動報告 (要旨)**

**調査テーマ**

**「リバースモーゲージ」**

**【当市の状況】**

まずリバースモーゲージとは、自宅不動産を担保にして生活費などの借り受けを行う高齢者向けの制度です。高齢社会が進むなか、土地や建物などの不動産があっても、年金や預貯金などの生活費が少なく、生活に不安を感じている高齢者は多くなってきました。不安を少しでも解消し、住み慣れた家で自分らしく日

常生活を過ごせるように、最近では金融機関支援という観点で、民間の金融機関が行うケースも増えてきました。

現在、本市では、社会福祉協議会が行っている国の制度の不動産担保型生活資金貸付制度がありますが、生活保護受給者や市民税非課税世帯など一部の低所得者のみしか利用することができないなど、利用条件が厳しく、また周知されていないこともあり、利用者ほとんどいません。今後、更に高齢社会が進むなかで、高齢者が生涯を住み慣れた地域・自宅で安心して過ごせるよう、行政が金融面も含めた福祉的支援などのアプローチを考えていく必要があります。

当委員会では、制度が持つリスク等から自治体が手がけにくい状況にありながらも、制度を維持している東京都中野区と武蔵野市を視察し、委員会で協議してまいりました。

**【行政への提言】**

高齢社会が進むなかで、「住みよいまち、半田」「住んでよかったまち、半田」の実現や、在宅での医療・福祉の実現のために、市内在住の高齢

者が望むなら、人生の最後まで住み慣れた地域や自宅での日常生活を送ることができるよう、提言致します。

◆更なる高齢社会を見据えて、高齢者が生涯を住み慣れた地域・自宅で安心して過ごせるよう、必要性和実施の可能性を含めたりリバースモーゲージ制度などの支援施策を、次のことに留意して調査研究すること

一、制度を利用しやすい不動産等の担保の評価額について

一、生活資金の一部を補う融資額について

一、「福祉・金融一体型」の施策について

一、リスク管理と基金の設置について

一、保険等の金融資産を含めた柔軟な制度について

これからの高齢者支援施策のなかで、高齢者の人生を自己完結することができるリバースモーゲージなどの制度は、魅力的であり将来性が高いものであると考えます。

**これらの提言**

につきまして調査研究することを要望し、当委員会の報告といたします。

